

化石スケッチに夢中

小中学生が「科学者体験」

新大特別講座

未来の科学者を育てようと、新潟大理学部が、新大特別講座「先取り 科学者の体験」が3日、新潟市西区の新大で開かれた。化石がテーマで、約20人の小中学生が顕微鏡で微生物の化石をのぞきながら、ユニークな姿をスケッチしていた。

講座は新大と科学技術振興機構(埼玉真川口市)が、小学高学年と中学生を対象に昨年6月から開いてきた。この日は8回目、2012年度の締めくくりとなった。今回は海底から採ったフランクTONの化石を、顕微鏡を使って観察した。新大自然科学研究科の栗原敏之准教授が「輪郭を濃く書くことがポイント」などとアドバイスし、参加者たちは円や楕円形のフランクTONを丁寧に描いた。

科学者になるのが夢という新潟市中央区の有明(62)6359。台小6年、栗原優太君(12)は「いろんな形の化石があつてきれいだったと声を弾ませていた。12年度の過去7回は「織り姫星やひこ星までの距離の測り方」や「絶対零度の仕組みを知る実験」などを取り上げた。13年度も実施する。参加費は無料。問い合わせは新大理学部、025(2



小中学生が顕微鏡を使って化石のイラストを描いた「先取り 科学者の体験」講座＝3日、新潟市西区